



## 北海道森林・山村多面的機能発揮対策 地域協議会

副会長 森 哲子

本日はみなさん素晴らしい発表をありがとうございます。印象に残ったことをお話しさせていただきます。

全般を通して、森に道があることがとても大事であることを、6つの発表で共通して深く感じました。

森ボラ協議会やニセコ伝承の森つくる会の事例では、次の世代に森の素晴らしさ、森を通して自分たちが何を学べるか、森の中での体験を通して想像力・思考力・判断力が増していくことが紹介されました。

うたのぼり・癒しの森の事例では「住民と交流していく場を森でつくりたい」という言葉が印象的でした。

硫酸山の森を育てる会の報告で、硫酸山という実態がある事を今日はじめて聞きました。酸性の強い山が、森を作ることで大きく役割が変わっていくという事例でした。

このような事例や話を、様々な場所で伝えていくことが、森・里山の大切さ、力強さを伝えていくことにつながると感じました。

ペーパーフォレストサービスの報告では、森林サービス業という新しい言葉を知りましたが、残念なのは無料・無償ということです。この森林サービス業が、国の政策・自治体の政策・地域住民の策などで有償となっていけば仕事の励みになります。そして薪炭事業も良い方向に発展すると思います。

交付金の切れ目が事業の切れ目になるとの話もありましたが、そのような事にならないようがんばりましょう。

本日の報告会の冒頭で、平成28年度は确实だが、29年度も交付金制度が継続するかどうか分からないという話がありました。それなのになぜ3年計画を提出するのかという質問もできました。その理由は、交付金継続への要望を伝えることが重要だからです。

3年計画をぜひ出して、国・道・自治体等にみなさんの力でプレッ

シャーをかけてください。それがこうした事業を継続しなければならないとして国の担当者の背中を押すことにつながります。たいへんご面倒をおかけしますが、3年計画を立てていただきたいと思います。

最後に、標津の森を守る会では、自然公園の様々な規制がある中で、森のコンサートなどを実施されていました。森に人を呼び込んで、荒廃した森が美しくなっていく様子、森の変化が、住民にリアルタイムで分かる機会をつくった事例が素晴らしいと思いました。

みなさまの活動が、事務局の力になっていると思います。これからもお力添えをいただいて、事業が継続していけるように願っております。今年もよろしく願いいたします。

